

活躍する専門技術者に聞く⑥

くろかわ ひろし
黒川 博司 氏（三菱重工エンジンシステム株式会社）



くろかわ・ひろし 60歳 福島県出身

第6回は三菱重工エンジンシステム株式会社（東京都品川区）に所属する黒川博司（60歳）氏を紹介する。自家発電装置の据付工事・試運転業務等に一贯して従事してこられた黒川氏より、貴重なお話しを頂いた。

1. 業務経歴

黒川さんは昭和53年に日本大学を卒業後、ニイガタディーゼルサービス株式会社に入社した。発電機の試験運転調整業務を皮切りに、工事責任者や海外での指導アドバイザー業務に従事した。「中東や台湾などで発電プラントの試験運転調整やスーパーバイザー業務を行いました。イエメンで関わったのは、当時世界最大級の総出力65,280kWを誇るディーゼル機関駆動の発電プラントでした。砂漠ですので、冷却塔ではなく大型ラジエーター式で、水回りの信頼性が特に求められた物件でした。」

平成14年に三菱重工東日本販売株式会社（現：三菱重工エンジンシステム株式会社）に入社した。

これまで関東を中心に延べ10件の現場代理人業務、20件以上の施工管理業務を行ってきた。

ニイガタディーゼルサービス時代に、一級電気工事施工管理技士の他、昭和60年に自家用発電設備専門技術者（K、M、二部門）の資格を取得。特種電気工事士の資格も保有している。平成20年度に優秀施工者を対象にした国土交通大臣顕彰「建設マスター（機械器具設置工）」を受賞した。

2. 大型物件の責任者として

最近においても、現場代理人業務として数々の大型物件の施工を担当した。印象深い施工物件として、平成19年に行った都内の官庁施設の常用発電設備工事（ガスエンジン機関駆動。1,000kW×2基）を挙げられた。「官庁街のど真ん中でしたので、機器の搬入工事は夜間のみ。搬入トラックの待機場所もなく、仮置きも出来なかった。分単位での細かい搬入作業工程で苦勞しました。」

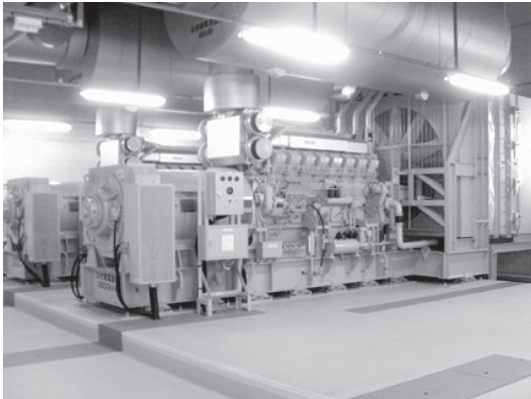


官庁施設の発電設備工事現場での黒川さん

千葉県の某施設の常用発電設備増設工事（ディーゼル機関駆動。出力500kW×6基）においても、豊富な現場経験が活かされた。「千葉県は寒冷地仕様ではなく、標準仕様での設置地域とされているのです。しかし、現地調査の際に最低気温が-5℃位になりまして、設計陣を説得し、コストアップにはなりますが寒冷地仕様へと変更させました。」

最新鋭の技術が用いられたテナントビルでの施工も数多く手掛けている。都内の某データセンターの

非常用発電設備の設置では約1年間、施工管理を務めた。「データセンターの非常用発電設備はテナントを誘致する上での看板商品ですから、貸主様の要求も高く、電源系統やビルとテナントの責任分界点などについて、貸主様や設計側とは何度も打合せを重ねて、施工を行いました。」



データセンターの発電設備

都内の某免震ビルに納入した発電設備の施工現場でも、黒川さん自らにとって学びがあった物件だという。「基礎免震構造のビルでした。発電装置への燃料ポンプの揚程に、免震層の高さ分を加える必要があったのです。今後免震ビルは増加すると思いますので、施工上、特に気を付けなければならないポイントです。」

赤坂の東京ミッドタウンに納入したガスコージェネ発電設備（出力900kW×2基）も黒川さんが現場代理人として施工した。「ピークカットを目的に導入された設備で、そうした設備は今でこそ数多く導入されておりますが、東日本大震災以前の納入でしたので、先見の明があったといえます。」

3. 施主様に喜ばれてこそ

施主様から直接喜びの声をもらった物件として、山梨県の電気機器工場に納入した非常用ディーゼル発電設備（出力1,000kW×10基）がある。「大震災直後で、短い納期で、10基のオーダーと聞いた時にはびっくりしました。制御系の設計陣も含め非常に気合いの入った物件でした。受電設備を担当している重電メーカーとは毎週のように打合せを行い、5ヶ月という短い期限で納めました。電力不足の最中での完工でしたので、施主様や行政の方も非常に喜んで下さり、お礼の言葉ももらいました。関係部署との意志疎通も上手にはかることができて、非常に達成感が大きかった物件でした。」

据付工事を通じて得られた信頼関係を活かして、

その後も顧客との取引関係に発展した物件も多々ある。都内の研究施設のガスコージェネ発電設備（315kW×2基）では、施主様から直接黒川さんに相談事が寄せられたという。「先日も『冷却塔に使用する薬品を変更したいけど大丈夫?』というご相談を頂きました。その信頼の基になっているのは、納期通り施工したことと共に、発電機本体が稼働後ノートラブルであることだと思います。」

4. 後進の指導

現在黒川さんには7名の部下がいる。現場代理人や職長となる部下に対し指導教育も行っている。「昔とは違い作業が細かく分業化されている現在は、若い社員は打合せや仕様書作りだけで終わってしまうことも多い。その打合せでも制御系の話だけで終わってしまったり…。さすがエンジンメーカー三菱だねと言われる様、基本である機械についての理解と経験を高めてもらいたい。」



部下への指導教育について語る黒川さん

「部下には初めての現場監督の仕事が一番つらい。そこをクリアできれば楽しい仕事になるんだよと申しています。部下にも無事完工した時の達成感を味わってもらいたいですね。『君達の仕事は希少価値だよ。自家発のプロフェッショナルは世の中に何人もいないんだよ。』と、発電設備専門技術者としてのプライドを植え付けています。」

最後に、内発協の専門技術者資格の活用についてお聞きした。「同資格講習会での法令編のテキストを中心に活用しています。テキストを持参して、所轄消防の方と打合せをしたりもします。」



会社は変われど、自家発業界一筋で数々の輝かしい施工実績を積み重ねておられる黒川さん。その言葉の一つ一つには、自家発電設備の施工現場に携わる方々に対する熱い想いと優しさを感じられた。